

分野連携企画報告書

行事（企画）名

生産システム部門／情報・知能・精密機器部門 コロナセッション講演会

行事URL : <https://www.jsme.or.jp/event/23-10/> <https://www.iip-conference.org/>

1.開催日・会場 2023年3月6日（月）、7日（火）

九州工業大学 戸畑キャンパス（Zoom配信によるハイブリッド開催）

3.企画内容

生産システム部門と情報・知能・精密機器部門のコロナセッション講演会を行う。本年度は、2021年と2022年に実施したオンラインの利点を活かし、対面とオンラインのハイブリッドでの講演会を開催する。両部門の参加者が相互の講演会に自由に参加できることはもちろん、学術研究者と産業界実務者が参加しやすい工夫を予稿集の準備段階から設け、講演会参加のメリットを享受できるような仕組みを提供する。特に一方的な研究成果の報告にならないようにすることを意識し、例えば実務者の問題解決の場ともなるような新しい講演会と学会の在り方を模索する。

4.連携の成果

MSDで58件、IIP部門で132件の講演申し込みがあり、またMSDで106名、IIP部門で200名の講演会参加があった。コロナ禍の影響で3年ぶりの対面での開催の効果も考えられるが、過去にそれぞれが単独で行った講演会に比べて、規模の大きい講演会を開くことができた。また、特別講演では企画段階から両部門の実行委員の意見を取り入れることで、時機を得た話題の企画を行うことができ、両部門から多くの聴講者を集めることができた。また、それぞれの部門から選出した若手の研究者の話題提供も互いの参加者の良い刺激にできた。コロナ感染症対策として参加人数を限定した懇親会も研究者間の交流を進める上で効果的あることを確認した。

2.企画部門 生産システム部門（MSD）、
情報・知能・精密機器（IIP）部門

5.今後の課題（苦勞した点、課題点、他の企画へのアドバイス等）

参加者が多くなることで、開催地の助成金などの申請条件（参加人数、宿泊数など）を満たし易くなることは利点である。その一方で、単独で行う場合に比べて2倍以上の規模の講演会を行わなければならないことは、会場の確保、受付での対応など、個別に経験してきた講演会とは異なることを意識した方が良い。事前でのオンラインでの登録や支払いは講演会当日の作業を減らすためにも積極的に活用すべきと考える。

オンラインの併用は、講演者と参加者の両方に効果があると理解している。ただし、機材の確保、当日のオペレーションの煩雑さ、不具合があった際の対応など、実施側の負担は大きい。本コロナセッション講演会では、IIP部門が別国際会議のために準備した機材を活用することができたこと、会場となった九州工業大学の学生アルバイトの適切な対応が得られたことが、成功の要因として大きい。

両部門の違いの調整も課題と言える。たとえば部門表彰のための講演に対する評価方法や、講演時間（MSDは20分、IIP部門は15分）の違いなどは今回は調整していない。